居場所とつながりのある学校づくり

津山市立河辺小学校

1 はじめに

本校は、津山市東部に位置し、児童数３０３名の学校です。数年前までは、子どもたちが落ち着けない状況が続いていました。そこで、子どもたちが安心できる学校づくりを目指し、岡山大学中山芳一准教授とも連携しながら、「居場所とつながりのある学校づくり」に取り組んできました。

2 取組内容

これまでの学校の課題について職員と話し合った結果、自己表現が苦手、人間関係の不安、自己肯定感の低さ、進んで学ぶ意欲の不足、高学年の良いモデルがないなどの課題が出ました。それを、「居場所のなさからくる不安感・自己肯定感の低さ」と捉え取組の柱としました。

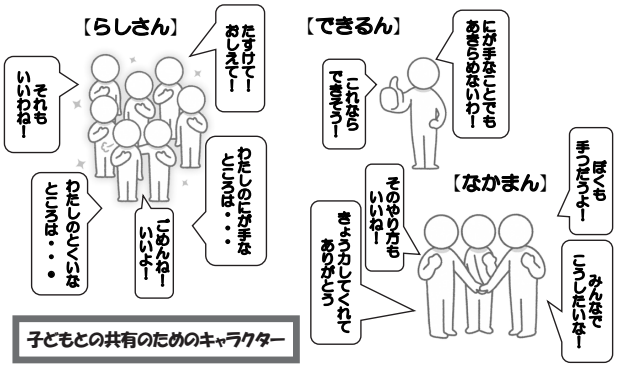
まずは「わからない」「教えて」が言える関係づくりを行い、対話のある授業に取り組みました。友だちとつながることで自信がつき、授業での居場所ができました。次は、先生が子どもに寄り添う姿勢を継続しました。問題行動の背景や理由をよく聞き、良い行動は評価しました。認める・ほめる・広げることで安心感ができ、問題行動は減少しました。

3 非認知能力の育成

中山准教授と河辺小版非認知能力の育成「自信のある河辺っ子」に取り組みました。自信を「自分らしさ」「自分ならできる」「仲間と取り組む」の３観点に分け、各観点５つの具体的な行動指標を作成し、子どもたちの行動を見取る「レンズ（視点）」としました。

①授業で伸ばす

学習のめあてに、自信（行動）のめあてを加え、子どもと共有します。「らしさん」「できるん」「なかまん」とキャラクター化しました。振り返りを大切にし、自己の変容に気づけるようにしました。



②行事で伸ばす

運動会と学習発表会で、「事前・中間・事後」に３回のアンケートを取りました。めあてに向けた自分の伸びを実感し、友だちと交流して頑張りや伸びを共有しました。

③高学年で伸ばす

運動会では、高学年の活躍の場を設定し、全校で評価しました。また、委員会活動などの活躍を見える化し、「あんな６年生になりたい」と思える良いモデルとなりました。

4 おわりに

居場所とつながりの取組で、安心感と自信が広がっていきました。今後は、子どもたちが進んで考えを出し合いながら、自分たちの手で「居場所」を広げ、よりよい学校を作ってほしいと願っています。

（校長　小池　尚）